

「開倫塾12の躰(しつけ)プログラム」で学習習慣を身に着けよう

No. 2 「靴(くつ)は手でそろえよう」

— 「自立」から「自律」へ —

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 「靴(くつ)は手でそろえよう」とはどういうことですか。

- A : (1) 自分でぬいだ靴はぬぎっ放しにしないで、「手でそろえる」ということです。
- (2) かなり多くの方は、自分でぬいだ靴をそのままぬぎっ放しにしておくようですが、今日からそれはやめましょう。
- (3) 自分でぬいだ靴は「手でそろえる」ことを習慣にしましょう。

Q 2 : なぜですか。

- A : (1) 自分でぬいだ靴はぬぎっ放しにしないで、「手でそろえる」ということは、自分の行動には責任を取るということを意味します。
- (2) 自分の行動には最後まで責任を取る「自己責任」という考え方が、勉強を含めあらゆることについて必要です。その手始めが、自分でぬいだ靴は「手でそろえる」ことです。
- (3) 「靴を手でそろえる」には、この他にどのような意味があると思いますか。



Q 3 : 「靴を手でそろえる」とは、自分の足元(あしもと)をよく見るということの意味すると思いますが・・・。

- A : (1) ① その通りですね。さすが開倫塾の塾生、よいところに気が付きました。
- ② 「靴を手でそろえる」とは、「いつも自分の足元を見る」ことも意味すると、私も考えます。
- ③ 「いつも自分の足元を見る」ことは、「いつも自分の足元を見て、自分を振り返る」「自分の行った行為がよかったかどうか反省する」ことを意味します。
- (2) 孔子の教えを弟子たちが 499 章にまとめた「論語」の中に、「三省(さんせい)」という章があります。
- 「孔子の門人の曾子が言った。私は一日の中で何回も何回も、主として次の点について反省する。
- ① 一つは、他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意をもって考えてやったか、とい



うこと。」

②二つは、友達との交際において、信義を尽くさないことはなかつたらうか。

③そして、三つには、まだ自分の知識として完全に消化されていない事がらを、他人に教え伝えはしなかつたらうか、と。」

*「論語抄」史跡足利学校発行5ページより引用

(3)①自分の足元をよく見ましょう。

②注意深く生活し、交通事故や事件・事故に巻き込まれないようにしましょう。

③「注意一秒・けが一生」です。

Q4 : ところで、サブタイトルの「自立」から「自律」へとは、どのようなことですか。

A : (1)「靴を手でそろえる」ことは、自分の足元に光をあてて自分自身のことをしっかり見つめ、自分自身を振り返る力を身に着けることと考えます。

(2)自分の力で立つことができる、つまり「自立」から、徐々に自分の行動を自分の力で律する、コントロールすることができる「自律」に進むことを意味します。

(3)ものごとの大切さ、つまり「価値」を1つ1つのことの中に見出し、その大切さ「価値」の意味を自分の力で考え、「意味付け」をする。そして、何をしたらよいのか、何をしないほうがよいのかを自分の力で考える。これが「自律」です。

(4)「自立」から「自律」へ、「自律的に行動する能力」こそが、「靴を手でそろえる」ことの目的でもあります。

Q5 : 「自立」から「自律」へですか。ちょっと難しそうですね。

A : まずは、「靴を手でそろえる」から始め、自分自身を見つめ直し、そのあとは、今、行っていることの大切さとは何かなどを考えれば、「自立」から「自律」へは少しずつ実現できます。ゆっくりやってくださいね。

2020年3月11日(水)